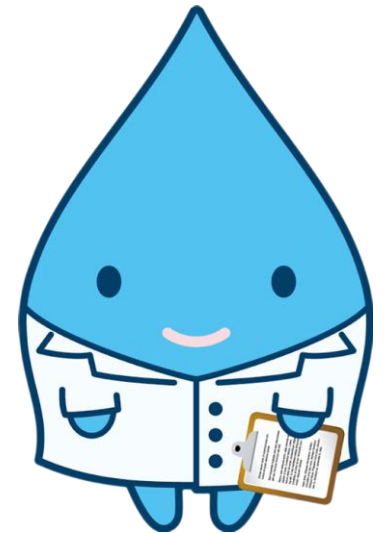
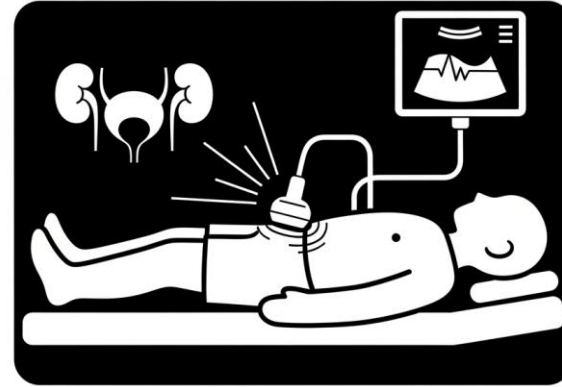


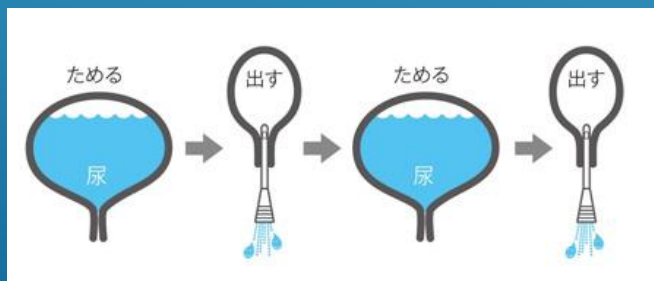
自己導尿における超音波検査の意義について





自己導尿をされている患者さんへ

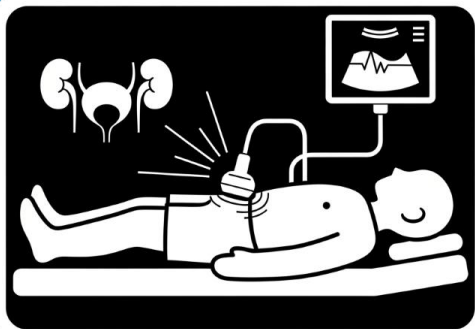
自己導尿は、ご自身で定期的にカテーテルを使って膀胱の尿を排出する大切な処置です。この自己導尿をより安全に、そして効果的に行うために、超音波検査（エコー検査）が非常に役立つことをご存知でしょうか。



自己導尿における超音波検査の意義について



超音波検査は、体の表面から超音波を当てて、体内の様子を画像として映し出す検査です。放射線を使わないため、繰り返し行っても体に負担が少なく、安心して受けていただけます。



超音波検査とは？

自己導尿における超音波検査の意義

- ▶ 自己導尿において超音波検査を行う主な意義は以下の通りです
- ▶ 1. 膀胱内の尿量の正確な把握
- ▶ 2. 膀胱や腎臓の状態の確認
- ▶ 3. 尿路結石などの異常の発見

自己導尿における超音波検査の意義



UROLOGY EXEMINATION



自己導尿のタイミングは、膀胱にどのくらいの尿が溜まっているかを知ることが重要です。超音波検査は、カテーテルを挿入する前に膀胱内の残尿量を正確に測定するのに役立ちます。これにより、**不適切なタイミングでの導尿による膀胱への負担を軽減**したり、**導尿回数を最適化**したりすることができます

1. 膀胱内の 尿量の正確な把握



UROLOGY



超音波検査では、膀胱の形や壁の状態、尿管が拡張していないか、腎臓に尿が溜まっているかなどを確認できます。

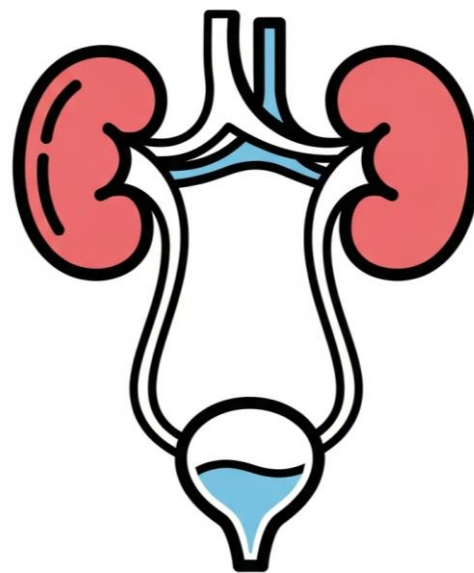
これは、**尿路感染症や水腎症**

（腎臓に尿がたまる状態）などの合併症を早期に発見し、適切な治療に繋げるために非常に重要です。

自己導尿をされている方の中には、膀胱の機能が低下していたり、尿路の通過障害がある方もいらっしゃいます。

定期的な超音波検査で、これらの状態の変化を把握できます

2. 膀胱や腎臓の状態の確認



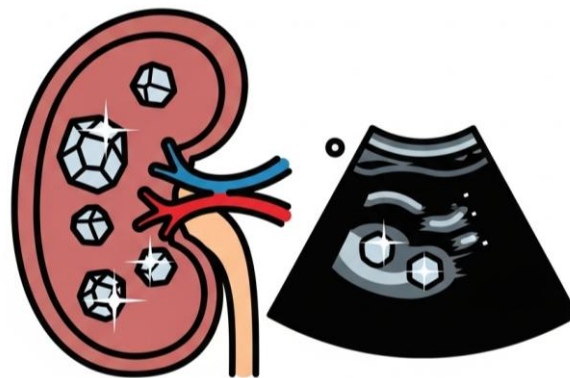
膀胱や腎臓に尿路結石ができていないか、

その他の異常がないかを
確認することもできます。

結石がある場合、尿路感染症のリスクを高めたり、排尿時の不快感を引き起こしたりすることがあります。

早期発見により、必要に応じて適切な処置や治療を行うことができます。

3. 尿路結石などの 異常の発見



超音波検査はどのくらいの 頻度で受けるべき？

超音波検査を受ける頻度は、

患者さんの状態や自己導尿の
原因、合併症の有無などに
よって異なります。医師が、
患者さん一人ひとりの状況に

合わせて適切な検査間隔を提
案しますので、ご不明な点が
あれば遠慮なく

ご相談ください。

